
第1回 神通川堤防調査委員会

議事要旨

1. 開催日時：平成30年8月9日（木）15:10～17:00
2. 場 所：富山河川国道事務所 3階 大会議室
3. 出席者：
委員長
大塚 悟（長岡技術科学大学大学院 教授）
委 員
安田 浩保（新潟大学災害・復興科学研究所 准教授）
瀧本 裕士（石川県立大学環境科学科 教授）
鈴木 洋之（石川工業高等専門学校環境都市工学科 准教授）
福島 雅紀（国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長）
佐々木 哲也（独立行政法人土木研究所地質・地盤研究グループ
土質・振動チーム 上席研究員）
4. 議事概要：
 - 第一回委員会では、調査結果から分かったことについて事務局より説明し、堤防欠損の要因と本復旧工法について議論した。
 - 被災メカニズムとしては、経年的に河床洗掘・河岸侵食が進んでいた状態で、今回の出水を受けて越水することなく蛇籠が流出、木工沈床も連鎖的に破損し、さらに空石張り護岸が崩落して堤体が侵食されたという、複合的・連鎖的な要因によるものと推察される。
 - 現地視察の結果、岩が露出していた状況も確認されたため、詳細な被災メカニズムについては、現地の状況を踏まえ事務局提案の内容を今後修正する。
 - 事務局提案の本復旧工法について概ね了承した。想定していなかった岩盤も現地で確認されたため、その点に留意しながら復旧工事を進めるものとする。
 - 同様な災害発生の防止に向けて、河道の平面形状・横断形状も含めた河道管理のあり方等を数値解析等も活用しながら検討すると良い。
 - 被災、整備履歴や維持、修繕内容を正しく記録し、経年変化を注視していくことが重要である。
 - 今回の委員会での指摘事項を踏まえ、事務局でとりまとめを行うものとし、修正点等の確認については委員長に一任した。

以 上
